

ほんごう照代と 一緒にやろまい!

てるてる てるてる ニュース

通算第22号新年号
発行
ほんごう照代後援会
西尾市一色町味浜北乾地58

新年明けまして
おめでとう
ございます

皆様方におかれましては、健やかに明るい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
さて、平成23年4月1日、旧西尾市と旧幡豆郡は合併し、様々な局面で合併のメリットとデメリット

トとを痛感してきた。この2年間で、合併により幡豆郡三町の首長は失職し、議員の数も60名から34名に減りました。それにより年間2億4千万円の人件費が他の事業予算に使えることになりました。また、自治体の規模が大きくなったということはそれだけ存在感も大きくなったというところで、たとえば道路などのインフラ整備も県に対してこれまで以上に働きかけを強めることができません。
でも、これでもいいのか、と思うこともたくさんあります。旧幡豆郡では地域の道路や側溝整備など地域に密着した問題は区長(町内会長)さんが行政とのパイ

プ役を果たしていましたが、西尾市ではそれが全て議員に委ねられております。これは旧幡豆郡の方式の方がいいように思えます。
防災については、あの大震災の教訓を



(祭礼でのお汁粉接待)

生かして、もっと女性の目線を加え、また避難場所も市全体の住民の動きを考え、てほしいと思います。市内の交通システムはどうでしょう。市が独自に運営するくるりんバスやデマンド型タクシーは市民の福祉の向上にどの程度役立っているのでしょうか。
さらに、地域経済の閉塞感、住民の将来に暗い影を落とし

ています。先が見えない不安から企業は採用を控え、地元で働いて暮らしたいと願う大学生や高校生たちの就職環境は厳しさを増すばかりです。
合併により私たちの西尾市は、豊かな自然、可能性を秘めた地場産業や人材、価値ある歴史や伝統文化の三拍子そろった底力のある町に生まれ変わりました。今必要なのは、この町でいつまでも充実した暮らしが続けられるような希望の持てる未来のビジョンを、住民を主役にして作り上げることだと思います。
ぜひ皆様のご希望やご意見をこのほんごう照代にお寄せください。そしてまた、本年もほんごう照代に絶大なご支援を賜りますように。

「ほんごう照代後援会」入会申込書 ⇒ FAXの場合は 0563-72-7260へ(電話と同じ) 手作りの後援会ですので、現在ボランティアスタッフ募集中です。

2月9日(土)午後2時30分のボランティアミーティングにご参加いただける方は○印をお付けください。

ふりがな お名前	男	〒	-	(0563)	
	女	西尾市	町	-	
ふりがな お名前	男	〒	-	(0563)	
	女	西尾市	町	-	
ふりがな お名前	男	〒	-	(0563)	
	女	西尾市	町	-	

十一月議会傍聴記



① 榊原市長次期出馬、前向きに熟慮!

市議会議員選挙と市長選との同時選挙(平成25年5月26日)

12月議会での一般質問のハイライトは、榊原康正市長の進退についてでした。議員の質問に対し、榊原市長の答弁は「次期出馬に前向きに熟慮」ということでした。ほかにも複数の出馬がうわさされ、市議選とともに年明けから賑やかになりそうです。

② 公共施設再配置モデル事業

老朽化が著しい学校教育施設の再配置について市の戦略を問う質問に対して、学校施設は地域の防災拠点としての機能も有しているので、長寿命化を図り予防保全的な改修整備が必要と認識しているとの答弁。しかし、ここでも問題になるのは多額の費用。そのために学校施設へ他の施設機能を集約することにより、公共施設のコスト削減を図り財源を確保していく、とのことでした。例えば、小・中学

校のプールは多大なコストがかかるため、中学校のプールを周辺の小学校が共同利用したり、民間プール(B&Gやホワイトウエーブなど)を利用することでプールの集約ができないかを調査・研究していくとのことでした。

「報告」かるた大会

ほんごう照代が編集委員として関わってきた、歴史と文化の情報誌「みどり」が創刊20周年を迎えることになりました。この二十年間、一色町の史跡や文化を精一杯紹介することで、私も地元の素晴らしさを再確認してきました。記念として「新西尾市名所『かるた大会』」が、お屠蘇気分を抜けない一月三日の午前に催されました。



ほんごう照代は「四人です。」

「子供は何人?」「四人です。」
「現代の子育てについてどう思いますか?」「うちの子供たちは地域の中で育ててもらったというのが実感ですね。」

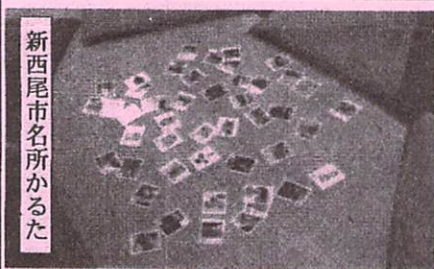
「『秘密の森』と子ども達が呼んでいる場所が家の近くにありました。大人の目には小さな薄暗い雑木林でした。何とかしたいですね。」

同年の友達だけでなく、自分の兄弟姉妹やその友達も一緒になつて遊びながら、地域の見守りの中で社会性を身に付けていったように思います。

子ども達はそんな風にして大切な想像力やファンタジーの力を養っていたんだと思います。そこも今はありません。子供の成長に必要な環境がどんどん失われていっているのは、とても問題だと思えます。

ほんごう照代は語り部として有名な田中ふみえさんと読み手を務めさせていただきました。

参加者は一般の部だけでも、前半、後半それぞれ五十人近く、合わせて百人ほどと大盛況でした。



新西尾市名所かるた

「ほんごう照代後援会」入会申込書 ⇒ FAXの場合は 0563-72-7260へ(電話と同じ) 手作りの後援会ですので、現在ボランティアスタッフ募集中です。

2月9日(土)午後2時30分のボランティアミーティングにご参加いただける方は○印をお付けください。

お名前	男	〒	-	(0563)
	女	西尾市	町	-
お名前	男	〒	-	(0563)
	女	西尾市	町	-
お名前	男	〒	-	(0563)
	女	西尾市	町	-